

楽しいね！実りの秋

各小学校で

稲刈り・脱穀体験

町内の各小学校では、稲刈りが実施されました。

今年は7月の日照不足などで全国的な不作の年となり、収穫量が減少することが予想されていましたが、刈り取り前に天気が持ち直したこともあって、例年に比べ若干の減少のみにとどまりました。

10月31日におこなわれた永野小の稲刈りでは、五・六年生が昔ながらの稲刈りに挑戦しました。

指導に当たった平三義さんは「皆さんには、基本的な動作を説明します。いい思い出になっけがないように楽しんでください。」と話し、実際に実技を交えて刈り取りから結び方まで指導しました。

最初、児童は力任せに鎌で稲を刈っていたため、あちこちから「難しい。稲が切れない！」という声があがっていました。稲刈りが終わる頃には「ザクッ。ザクッ。」と心地よい音を立てながら刈り

取つて要領よく掛け干ししていました。

また10月29日には、中津川小の脱穀がありました。

中津川小では、学校の前の学習田に古い足踏み脱穀機2台を用意。

児童は交代で、掛け干ししてあつた稲を、脱穀機のペダルを踏みながらたくさんの方にかけて脱穀していました。しかし回転が反対になり、うまく扱ぐことができない児童もいました。

各学校では、収穫した米を後日餅にして高齢者などに配布予定にしています。



▶ みんなで一生懸命、刈り取っています。(求名小)

▶ バインダーの出番がないようにがんばって。(永野小)



▶ 速い回転に負けないように稲をしっかりとぎって！(中津川小)

びびり箱



【作文】

私に刻まれた思い出

薩摩中二年 水口 志乃さん
九月三十日の朝。私たち二年生にとって、一年間の中で一番大きな行事であり、一番楽しみにしていた修学旅行がやってきた。楽しみでたまらなくて、一週間前から準備をしていた人もいたらしい。みんなソワソワしている中、出発式が終わり、バスに乗り込んだ。修学旅行が始まった。

一日目は、まず、吉野ヶ里歴史公園へ行き、弥生時代の建物をじっくり見学した。歴史の授業などで出てきた建物もいくつかあった。そんな建物を見ているだけで、昔の人たちの生活が見えてくるような気がした。昼食を済ました後の勾玉作りの体験では、一人ひとりのオリジナルの勾玉が出来上がり、この修学旅行を思い出させてくれる大事な宝物の一つとなった。次に、原爆資料館や平和公園などへ行った。原爆資料館では、生々しい映像や写真があり、当

時の苦しさ、悲しさ、つらさがとても伝わってきた。自分たちがどんなに幸せで、どんなにぜいたくな暮らしをしているのかがよく分かった。その時、私は心に重いおもりがズシンとぶらさがったような気持ちになった。その日の夜の大崎さんのお話を聞いて、私は思った。これから先、多くの人たちに長崎や広島で起こった事について、私たちが伝えていき、知ってもらわなければならないのだと。

二日目は自主研修があつた。いつも私たちが過ごしている薩摩町とはガラリと違うこの街を、たくさん歩き回り、とても疲れてしまった。でも、疲れた分だけたくさん楽しむことができた。そして、一人ひとりが作ったオリジナルの勾玉と同じように、楽しく過ごしたこの修学旅行を思い出させてくれるネックレスを買うことができた。本当にすぐうれしかった。もちろん、オペラ座の怪人やホテルで過ごした時間もすごく楽しむことができた。

最終日、この三日間のうち